

# 農業の新しい技術

585 (平成20年 7月)

分類コード 02 - 04

熊本県農林水産部

## 県育成イチゴ品種「ひのしずく」に適する 育苗方法と栽培管理

農業研究センター 農産園芸研究所野菜研究室

担当者：坂本豊房

### 研究のねらい

大果で食味が優れる県育成イチゴ品種「ひのしずく」は、平成16年より現地にも本格的に導入されており、生産安定を図るため栽培技術の確立が求められる。

そこで、「ひのしずく」に適する育苗方法、芽数の調整方法、3月上旬頃の株の立ち上がり時に生じる糖度低下軽減対策を明らかにする。

### 研究成果

1. 鉢受け時期が早いほど、クラウン径は大きく、草高、葉も大きい傾向となる。クラウン径11mmを目標にする場合、6月20日より前に鉢受けをする必要があり、6月までが適する(表1)。
2. 置き肥の施用量は、購入培地(N約60mg/鉢)で育苗した場合、クラウン径を含めた苗質はほとんど差がなく置き肥は70mg/鉢で十分である(表2)。
3. 第一次腋花房以降の芽数については、2芽に調整することで1芽調整・調整なしより商品果収量が多くなる(表3、4)。
4. 株の立ち上がり時(2月下旬～3月中旬)に生じる糖度低下の軽減対策として、一次腋果房収穫約10日前からの液肥処理は有効である(図1)。

### 普及上の留意点

1. 購入培地の組成は、粉碎繊維状杉皮バーク、炭化物、赤土で構成される。液肥は、7月20日、7月29日、8月6日、8月16日の計4回施用し、1回当たりN:約40mg/鉢。
2. 置き肥は、尿素入りB化成S1号(N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=10:10:10%)を使用。
3. 液肥処理は、第一次腋花房収穫約10日前から7～10日毎にN成分で0.5kg/10a施用。

表1 鉢受け期と苗質 (平成16年 9月15日、10株調査)

鉢受け時期	葉数 (枚)	クワン径 (mm)	草高 (cm)	葉身長 (cm)	葉幅長 (cm)	葉柄長 (cm)	葉色 SPAD
5月12日	5.8	12.4	18.2	8.9	6.0	9.1	29.8
5月26日	5.3	12.0	19.6	9.0	6.0	10.1	30.0
6月 9日	5.8	11.8	18.4	9.1	6.2	8.8	29.4
6月23日	5.1	11.0	16.6	8.3	5.5	8.5	26.8
7月 7日	5.2	9.9	15.0	7.7	5.5	7.9	26.9

注) 1 葉身長、葉幅長、葉柄長および葉色は新生第3葉を調査  
 2 葉身長および葉幅長は小葉を測定

表2 置き肥量(N)の検討 (平成16年 9月15日、10株調査)

置き肥量	葉数 (枚)	クワン径 (mm)	草高 (cm)	葉身長 (cm)	葉幅長 (cm)	葉柄長 (cm)	葉色 SPAD	頂果房 開花日	早期(2月まで) 総収量(kg/10a)
70 mg	5.5	11.1	17.9	8.9	5.7	9.3	28.7	11/14.1	1,008
140mg	5.5	11.6	20.1	8.9	5.6	9.2	28.4	11/14.2	1,038
210mg	5.7	11.8	17.4	8.3	5.5	9.9	28.7	11/16.0	1,045
140mg(70mg2回)	5.3	11.4	17.9	8.9	5.7	9.3	28.7	11/15.6	1,118

注) 1 葉身長、葉幅長、葉柄長および葉色は新生第3葉を調査  
 2 葉身長および葉幅長は小葉を測定

表3 芽数と収量 (20株当たり)

芽数	規格外品		総収量		10a当たり 商品果収量 (kg)	秀品率 (果数比) (%)	商品果率 (果数比) (%)
	果数 (個)	果重 (g)	果数 (個)	果重 (g)			
1芽	20	119	582	11,071	3,650	85.6	96.6
2芽	34	193	720	12,884	4,230	87.8	95.3
調整無	57	298	744	12,606	4,102	85.5	92.3

表4 芽数と平均果重の推移 (単位:g)

芽数	1果重						商品果 平均重
	12月	1月	2月	3月	4月	平均	
1芽	26.0	15.5	33.0	18.5	17.6	13.2	19.5
2芽	26.7	16.7	32.6	16.5	15.2	14.0	18.5
調整無	25.2	16.1	32.4	15.9	15.5	12.1	17.9

糖度 (Brix)

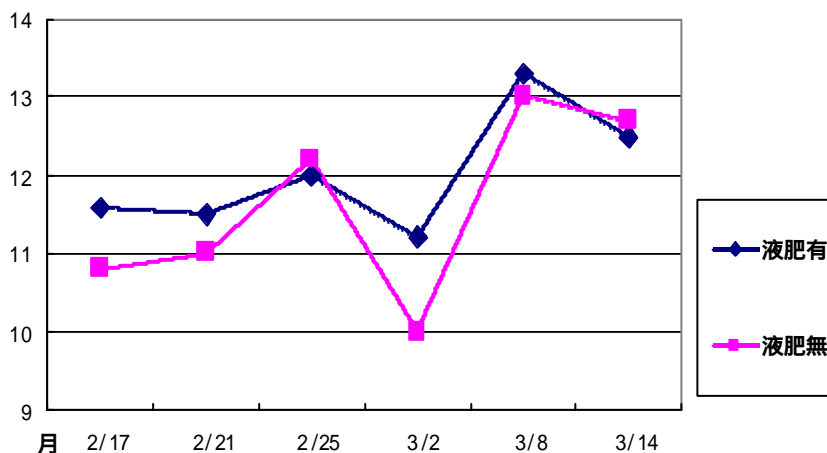


図1 液肥施用がイチゴ果実(果頂部)の糖度に及ぼす影響